

【佳作】

笑顔が溢れる北方領土

札幌日本大学中学校

2年 許 玲実

北方領土を不法占拠されたのは突然のことでした。

昭和二十年、第二次世界大戦終戦後に、当時のソ連軍が千島列島を南下し、当時住んでいたほとんどの日本人を追い出して、ロシア国民を移住させたのです。北方領土はこれ以来、今日までのおよそ八十年間にわたって、わが国の領土でありながら、ロシアによる不法な占拠が続いているという状況にある地域なのです。それだけに北方領土は、長い間領土の主権を訴え続けてきた日本とロシアとの間の政治的な問題の象徴となってきました。ソ連軍はその後、残った日本人に対しても酷い扱いをしたのです。通信は遮断され、海を渡ろうとした人は射殺され、財産は奪われ、行動も言論の自由もなくなってしまいました。そして、労働者として強制的に移動させられてきたロシア人やソ連軍の軍人達との共同生活を強いられました。さらに、二年後の夏ごろ、島に残りたければ、ソ連の国籍を取るように言われました。村の人々は全員、拒否をしました。ほとんどの荷物を置いたまま家族ごとで船に乗せられ、樺太の真岡の収容所へ連れていかれました。それにより、助け合って生きてきた村の人々はばらばらになってしまいました。元島民の方々の中には小さい頃に空襲で家族を亡くしたという方々もいて、その文章を私は涙を流しながら見ていました。もしも私の方々と同じ状態になっていたと考えると耐えきれないからです。島に唯一ある一台のラジオを通じて日本が戦争に負けたことを知り、絶望を感じ、防空壕で周りの大人はどう「自害」するかを話し合い、その輪に入った途端、「貴方は私が殺してあげるからね」と片手に刃物を持った女性が近づいてくる。決死の覚悟で外に出ると、至る所に死体がある。そのような光景を目の当たりにした人々の中には私達と近い世代も少なからずいました。それを聞いて、とても心が痛みました。実際に当時十四歳だった女性に話を聞いている動画を視聴しました。話をしながら涙ぐむ女性を見て、沢山辛い思いをしてきたのだろうなと思いました。しかし、彼女は怒りも露わにしていました。なぜなら、北方領土を作り、支えてきた日本人の素敵な歴史をあたかも自分達の手柄のようにロシア人が語っていたからです。そして、彼女は最後にこう言いました。「若い世代に伝えたい」。

日本政府や北海道は領土返還にむけて様々な取り組みをしています。ですが、行っているのは日本全体でも一部です。

北方領土を返還してもらうことは簡単なことではありませんが、私は今回、北方領土について調べ、元島民の方々の色々な想いを知りました。どんな想いがあっても北方領土を返還してほしいことは変わりません。領土問題の早期解決は一部の人だけがどんなに頑張っても叶いません。政府と私達国民が一丸となって取り組むことが重要だと思います。

この問題を解決し、笑顔が溢れる北方領土になる未来を創るのは私達です。